

椎骨動脈起始部 stent 留置術
Vertebral artery stenting

美原記念病院 脳神経外科

Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Iseaki, Japan

美原記念病院 脳卒中部門

Department of Stroke, Mihara Memorial Hospital, Iseaki, Japan

赤路和則、望月洋一、志藤里香、谷崎義生

AKAJI KAZUNORI, MOCHIZUKI YOICHI, SHIDOH SATOKA, TANIZAKI YOSHIO

神澤孝夫

KANZAWA TAKAO

Key words:

Vertebral artery stenting, Palmaz Genesis stent

【目的】当院で 2010 年から 2015 年までに 5 例の椎骨動脈起始部狭窄に対する stent 留置術を経験したので、有用性について検討した。

【方法】 当院の椎骨動脈起始部狭窄に対する治療の適応は 70%以上の高度狭窄で、症候性病変または対側病変の合併としている。65 歳から 80 歳、全て男性、右側が 3 例、症候性が 3 例であった。

【結果】全例、経大腿動脈法で行い、4 例で Palmaz Genesis stent、1 例で Driver sprint stent を使用した。周術期合併症はなく、術後脳卒中も認めなかった。代表症例を提示する。71 歳、男性。左椎骨動脈起始部に 90%の高度狭窄を認め、対側病変を合併したため、左椎骨動脈 stent 留置術施行。全身麻酔。右大腿動脈に 6Fr sheath を挿入し、6Fr Envoy 90cm を左鎖骨下動脈へ誘導。左椎骨動脈の狭窄部遠位へ、Carotid GuardWire を留置し、distal protection。Gateway で前拡張をし、6Fr Palmaz Genesis stent を留置。血管撮影上、良好な拡張が得られた。術後の拡散強調画像では高信号域を認めず、経過に問題なく、退院した。

【結語】 当院における椎骨動脈起始部 stent 留置術は安全で有用であった。